

第3回 阿賀野市市政モニター会議 議事要旨

1 会議の概要

日 時 令和元年10月30日(水)午後7:00~8:30

場 所 阿賀野市役所 第一多目的ホール

出席者

【モニター】(敬称略)

権瓶 佳子、赤沼 映美子、塩田 亨、田村 真樹、廣川 亜美、土岐 一希、
雪 薫、伊藤 明美、遠藤 洋二

【市】

市長政策・市民協働課:課長補佐 遠海 美穂子、
秘書広報広聴係主任 小林 政仁、同係主事 小林 佳乃子

2 議事概要

総合計画の政策体系ごとの意見・提言について

3 主な意見

【防災減災体制の充実】

○10月13日に起きた台風19号による水害で、阿賀野川沿いの地域に避難勧告が出たが、私も含め、市民は対応方法を理解していない気がした。阿賀野川が決壊したらどうするのか、どこにどう避難するのかなどを記した、阿賀野市版の緊急時の対応マニュアル作成が必要と思う。ハザードマップはあるが、話を聞かないと分からない人もいると思うので、市が作成したマニュアルを基に各集落で最低年1回は、総会などで緊急時の対応を話し合うなど、住民一人一人に浸透させる仕組みづくりが必要ではないか。

○消防団員の中には、災害時にすぐ駆け付けられる人と、そうでない人がいる。そういった現状を把握し、そのことを踏まえた体制にした方が、緊急時の対応力が上がるのではないか。

○防災行政無線は聞こえない地域があるので、整備をすすめてほしい。

【健康づくりの推進と高齢者福祉】

○ふれあい広場やすだが開所して1年が経った。阿賀野市は、地域の人々が交流を目的に気兼ねなく集まれる居場所づくりに頑張っている。

おしゃべりや軽い運動、脳トレ、レクリエーションなどでひとときを過ごし、時には、子どもたちとの触れ合いやさまざまな催し物もある。

くつろげる場所があるということは、健康寿命を延ばすことにつながる。

ふれあい広場は評判がよく、今年は笹神地区と水原地区に開所され、京ヶ瀬地区でももうすぐ開所される。ボランティアの人たちは、大変熱心である。

私もボランティアで参加しており、自分の生きがいにもなり、やりがいがある。

ぜひ、大勢の人に参加していただきたい。

○ふれあい広場やすだはデイサービス施設であった場所で始めたが、他の地区は公共施設で行っていると思う。公共施設は敷居が高い感じがするので、気軽に行ける場所という雰囲気づくりが必要と思う。空き家や地域の集会場などに会場変更するのはどうか。

【子どもの育成支援の充実】

○阿賀野市の子どもの育成支援は充実していると思う。

○地域で子どもを増やすために、埼玉県川口市や小千谷市のように、農地と住宅(空き家)をセットにした取り組みを行ってはどうか。地域の高齢者が、勉強以外で、子どもたちにいろいろなことを教える塾をやりたいと思う。実現するにはハードルが高く、子ども育成という観点では、農地を利用してやれないかと考えている。

○県は教職員を午後5時に完全退校させる指導要領の改定を行うと聞いた。運動部だけでなく文化部も完全退校となるらしい。今まで県立の進学校が、土日に生徒を集め、独自にボランティアで教えていた取り組みもなくなる。そうなれば、子どもたちがお金を払わないと勉強や習い事ができない環境になり、親の経済状況による学力差が広がる可能性もあるので、早めの対応が必要と思う。

○京ヶ瀬児童クラブについて、普段は下校後 3 時間程度の利用が、夏休みは丸一日になる。夏休みはかなりの人数が大きいとはいえない場所で 1 日過ごす。今年は暑く、プールは 1 度も利用できなかった(午前 11 時の時点で気温 33 度以上だと入れないと決まりがある)。図書館隣のアリーナもすごい熱気で、子どもたちも遊びたいが、暑いから行きたくないといった感じでストレスがたまっていたようだ。ストレスがたまるとトラブルも起きる。夏休み後半は疲れがたまってきた特にイライラしている。

今お話のあった農地とセットで、他の地域の人と何かするというのはいいいアイデアだと思った。

また、京ヶ瀬児童クラブには非常勤のスタッフしかいない。去年まで京ヶ瀬こども園に児童クラブが入っていたが、京和荘に移動したときに常勤がいなくなった。

○児童クラブは小学校の退職教員の男性がいるといい。他の市町村では保育士の退職者が低学年の対応をし、小学校の退職者は高学年を担当して、保護者にも大変喜ばれている所がある。

【引きこもり対策】

○50 歳代の子どもが引きこもり、80 歳の親が生活を支える「8050 問題」が全国的な社会問題になっている。デリケートな家庭の問題だが、市はある程度の該当者を把握していると思うので、いよいよ困ってどうにもならない状況になれば、子どもや高齢者に手を差し延べてほしい。

○手を差し延べたいが、当事者は引きこもりであることを表に出そうとしない。

○周りに知られないうちに自分たちで何とかしようとするから、なおさら表面化しないし、言い出しにくいのもあると思うが、いよいよ厳しい状況になれば手を延べてほしい。

○子どもに置き換えると、自閉症や発達障害は今、区分が多いから診断基準も細かくなってきている。市内でも自閉症や発達障害と診断される子は多い。ことばとところの相談室はあるが、個別相談の受け入れには限度がある。市内で対応できるのは、ことばとところの相談室と社会福祉協議会だけなので、もっと細分化して、その子に合ったフォローができれば、将来的に障がい起因した引きこもり者も減っていくだ

ろうから、そういう施設が各地区にあったらいい。

子どもに限らずだが、心の相談電話のカードを公共施設に置いておくだけでは誰も電話しない。そういう施設が近くにあるからこそ気軽に行けるのだと思う。

○引きこもりや発達障害の子がいる家庭が周りに言えないのは、偏見やうわさが気になるからであって、周りに障害を知ろうとか、受け止めようとかいう空気がないことも原因と思う。近くにそういう施設があることで「特別じゃない」と、話しやすい雰囲気ができるのではないか。

はまぐみ小児療育センターや発達クリニックなど、医療機関は今すごく混んでいて、予約しても3か月後になる。

【地域経済の活性化】

○阿賀野市の外国人観光客(インバウンド)の状況はどうか。佐渡は欧米人観光客が増えているようだ。欧米人観光客は経済的効果が高いといわれている。

【住環境整備(ごみ対策)】

○周辺道路へのポイ捨てがひどい。監視カメラや看板設置など、何かよい抑制方法はないか。

○最近では自動販売機の横にごみ箱がなくなった。コンビニもごみ箱を店内に移動しているところが多い。ポイ捨てがなくなるよう、ごみ箱を出してくれる商店に対し、市のごみシールを追加で配付するのはどうか。

【道路環境の充実】

○前回のモニターの意見で「駒林の点滅信号を無くした方がいい」とあったが、駒林地内に事故が多発する角地がある。そこはブロックが壊されるたびにきっちり直しているが、直すと見通しが悪くなり、また事故が起こっている。対策として、ポールを立てるのはどうか。「駒林の点滅信号はあった方がいい」という人もいる。

○阿賀野市の道路は暗いと思う。中高生は自転車で通うが、街灯がない場所は怖いと思うことがある。道路もそれほど広くないし、学校指定の道路とはいえ、危険が多い。

部活終わりでライトは付けているが、運転している人は通学路だからといってスピードを緩めない。